



く手の平で包み込むように頬にタッチします。頬にタッチされると、フワッと表情が和らぎます。気持ちの盛り上がりと共に入っていった体の力も抜けていきます。歌いかけとタッチングを感じて気持ちが高まっているのを感じました。

利用者のよりよい生活に向けた取り組みとして、個々に合わせた生きがい活動を提供しています。普段の表情とは違い「なんか目が活き活きしているな」や「なんか期待してワクワクしている」など、働きかけを感じている様子がみられます。これは、「重症心身障害児者の日常活動の階層化」の活動を提供するようになり、今まで以上に感じるようになり、今更以上と感じるようになりました。これからも利用者の方々の生活がより豊かになるための生きがい活動を実践していきたいと思えます。

### 異動職員紹介

●すばる 神谷 由美子

異動から、5ヶ月が経ちました。おおぞらに来て始めて、重症心身障害児(者)の看護を経験することになりました。非言語的コミュニケーションの中で、利用者の方々の思いを理解するのは本当に難しく、気持ちに添った看護ができて

いるのかどうかと、悩む日々でした。しかし、先輩職員からの、丁寧な指導に助けられました。丁寧な指導に助けられました。重症心身障害児(者)の特徴でもある体の変形が強い利用者が、体位交換一つとっても体位が落ち着いて表情良く過ごせている様子を見ると、心地よい時間となっているのかなと思います。できるだけ不快が取り除けるような工夫に努めています。気持ちに添った看護ができることを目標に、今後も取り組んでいこうと思っております。で、よろしくお願いたします。

●栄養課 おおぞら係

野島 富佐夫

管理栄養士の野島富佐夫と申します。4月より、聖隷おおぞら療育センタースタッフの仲間入りをさせていただきました。

声が大きいことくらいしか自分のとりえは見当たりませんが、利用者の皆様方から笑顔とパワーを頂き、「食べる」ことを通じて、お一人お一人とふれあい、少しでも当センターで楽しく快適な生活が送れますよう、微力ではありますが頑張らせていただきますので、よろしくお願いたします。



### 「フェスタおおぞら」を

### 開催いたしました

9月22日(日)に「フェスタおおぞら」を開催いたしました。

模擬店や近隣の福祉施設の方々によるフリーマーケットが開かれたほか、イベント会場ではフラメンコのステージや、ギターとフルートのアンサンブルも披露されました。当日はさわやかな秋晴れの中、多くの方々に来場いただきました。

ボランティアさんをはじめ、参加いただいた皆様、ありがとうございます。



▲パシオンフラメンカ様によるフラメンコのステージ。色鮮やかな衣装を身にまとい、息の合った踊りを披露してくださいました。

### 家族の会による草刈奉仕作業 10月27日(日)

家族の会の会員の皆さんが、だいち・すばる・はるかんの庭の草刈作業を行っていただきました。50名近い多くの方にご協力いただきました。ありがとうございます。



	9月	10月
ショートステイ利用者数(延べ利用日数)	98名 (499日)	94名 (503日)
日中一時支援利用者数(延べ利用日数)	3名 (7日)	1名 (5日)
ボランティア参加人数(グループ数)	18名 (6グループ)	6名 (4グループ)
実習者数(グループ数)	6名 (3グループ)	2名 (1グループ)